

1 本書の構成

101の核となる名詞 (Core Nouns) がアルファベット順に配列されています。(101名詞の選択についてはp.16を参照)

各項目は見開き2頁で、項目ごとの構成は以下のとおりです。

(1) 見出し語 (Core Noun) と解説

見出し語：原則として1語ですが、‘man/woman’のようにまとめて提示したほうが有用と思われる場合はペアで掲げてあります。

㊦と㊧：名詞は「数えられる名詞」と「数えられない名詞」の二種類に分類されますが、これを本書では、**㊦** (Countable: 数えられる名詞) と **㊧** (Uncountable: 数えられない) の記号で示しました。

両方の用法を持ち、頻度に差がある場合は、頻度の低いほうを薄く示してあります。

例えば、‘**㊦㊧**’はその名詞が「数えられる名詞」として用いられる場合が多いことを示しています。

文法・語法情報：文法や語法面での注意事項や日本と英語圏での文化的な差異に関わる情報を適宜加えました (★印で表示)。

相互参照項目：合わせて学習すると効果的な他のCore Nounsを最後に‘>>’で示してあります。

(2) コロケーション (見出し語が連れてくる語句・表現)

続けて、それぞれのCore Nounが「連れてくる」典型的かつ多様な語句・表現 (コロケーション) をあげました。必要に応じて、次のような**〈ラベル〉**で分類してあります。

〈～ (Core Noun) からのバリエーション〉

それぞれのCore Nounが作り出すバリエーションを示しました。

例えば、(001) ACCIDENTの項目では、〈accidentからのバリエーション〉というラベルの下に‘a fatal accident’ (致命的な事故) や ‘an accident that caused serious injury’ (ひどいけがを負わせた事故) など ‘accident’ が他のどんな形容詞や名詞 (句) と結びついてバリエーションを作り出すかがわかります。

これにより、Core Nounをもとにした**形容詞や名詞 (句) に関わるボキャブラリーの増強**がはかれます。

〈～ (Core Noun) が連れてくる動詞〉

動詞 (句) とそれぞれのCore Nounの結びつきを、フレーズや文の形で示しました。

例えば、ACCIDENTの項目では、‘avoid’ や ‘reduce’ や ‘witness’ が ‘accident’ と結びつきやすいことがわかります。

逆にここから、それぞれの動詞の典型的な用法を知ることにもなり、**動詞に関わるボキャブラリーの増強**がはかれます。

〈関連表現〉

ここは、何らかの形でそれぞれのCore Nounと関連のある語句を用いた表現を集めてあります。

例えば、(010) BOSSの項目では ‘bossy’ という派生語を用いた表現があります。(015) CHARACTERの項目では、‘character’ に関わる別の名詞表現やコロケーションを集めてあります。

〈決まり文句〉

ここにはCore Nounに関連した典型的なことわざ、名言やイディオムの表現、格言などを集めてあります。

〈それぞれの項目独自のラベル〉

これらの他にも項目に応じて適宜、独自のラベルを設けてあります。どれも自明のものですが、少しだけ例をあげておきましょう。

(013) CHANCEの項目では、‘chance’のもつ複数の概念をはっきりさせるために、「機会」「見込み」「偶然の一致」それぞれに関わる表現に分けて用例をあげました。

(074) MONEYの項目では、「入ってくる金」と「出ていく金」という2つのラベルを設けました。これにより、私たちが‘money’についてどのような考え、‘money’という言葉をどのように用いているのかがわかります。

●その他の注意点●

名詞以外の用法：名詞には形容詞（例：a pet dog）や副詞（例：I went home）として用いられる場合もあり、本書でもそれらの用法を含めて扱い、特に注意が必要な場合はコメントを添えました。

□と○の典型例：用例の後ろに小さくつけた□や○は、その用例が〈解説〉で示した□あるいは○としての典型的な例であることを示しています。それぞれ各項目1～2例を選んであります。

イディオムの指摘：用例中で重要なイディオムを形作っている部分には下線を施し、それが分かれている場合は点線でつないで注意を喚起しました。

(3) ストーリー

ここは上にあげた文法情報やコロケーションが多く含まれたまとまりのある文章を示しました。これにより、それぞれのCore Nounを含む**さまざまな語句・表現を一つの体系として頭に深く認識させることができます**。

2 本書の使い方

本書はこれと決まった使い方はありません。ここの説明をとばして、すぐに21頁からの本文を読み始めてもかまいませんし、どこからどのように取り組んでも効果の上がるように設計されています。

しかし、以下の提案にしたがって取り組めば、さらに無駄なく効果的に学習を進めることができますと思います。

＊

読者のみなさんが本書で示したフレーズや文を覚えることができれば、英語を読んだり、聞いたりするうちにそれらに出くわす機会が頻繁にあることに気づくでしょう。その理由は、**それらのフレーズや文が英語で最もよく用いられるコロケーションの例だからです**。

また、このコロケーションは**話す・書くときにも「そのまま使える」英語のかたまり（chunk）**なのです。（コロケーションの重要性については、p.14を参照）

英語でもどんな言語でも、ばらばらに覚えなくて、このような「かたまり」ごとに覚えてゆけばアウトプットも非常に楽になります。なぜなら、「ジグソーパズル」を組み合わせるような複雑な作業から脳が解放されるからです。

上級レベルの読者の方は、さらに学習効果を上げるために、本書のフレーズや文を使って、「ストーリー」に変更を加えていくことをお勧めします。すでに「ストーリー」に使われている表現を置き換えたり、そこに足していったりするのです。

理想を言えば、みなさんが本書のフレーズや文を使って、自分独自の新しいストーリーを作り出すことができれば完璧でしょう。

本書は、最初から順を追って取り組んでいってもかまいませんが、自分の興味のある項目から拾い読みしていくのもいいでしょう。

お勧めの学習法は、どこからでもかまいませんから、どれか1つの項目 (Core Noun) をまず徹底的に学習することです。そして「相互参照」(>>) を利用して次々に関連する項目 (Core Noun) に取り組んでいきましょう。

こうすればみなさんは知らず知らずのうちに、すべての項目を楽しみながら学習することができるのです。これが最も効果的で無駄のないやり方でしょう。

例えば、みなさんの目に最初にとまったのが (058) HOTEL の項目だとします。みなさんは次のように進んでいくはずです。

HOTEL >> HOLIDAY >> WEEKEND >> ENJOYMENT >>
HAPPINESS >> EMOTION >> BEHAVIOUR >> CHARACTER >>
KINDNESS

また、(016) CHILD の項目からならこう進むはずです。

CHILD >> FAMILY >> HOME >> HUSBAND/WIFE >> SEX >>
ENJOYMENT >> HAPPINESS

このようにしてみなさんは、名詞から名詞へ、まるで「ガイド付きのツアーで生活空間をめぐるっていく」ような体験をすることができるわけです。

お気づきと思いますが「HOTEL 発のツアー」も「CHILD 発のツアー」も ENJOYMENT を通ることになります。生活空間の中のさまざまな名詞は、特にその中心部分 (すなわち生活空間の核付近) では、程度の差はあれ互いに密接に結びついているのです。

さらに言えば、**英語の単語、イディオム、文法などはばらばらに**

存在しているのではなく、互いに密接に結びついた1つのシステムのようなものを構成しているのです。

英語を最も速くマスターするには、「検定試験などで高得点をあげるためだけに、1000単語を覚えたり、よく出るイディオムを暗記したり、文法を学んだり」しても意味がありません。

最善の方法は、英語というシステムを構成する要素の結びつきを理解し、その結びつきを用いて英語を使える範囲を徐々に広げていくことなのです。

みなさんの興味に応じて、本書は何千通りものツアーを用意しています。どうぞご自由にお楽しみください！